

令和 3 年度

堀江ドック船舶等状況調査委託

報 告 書
(概 要)

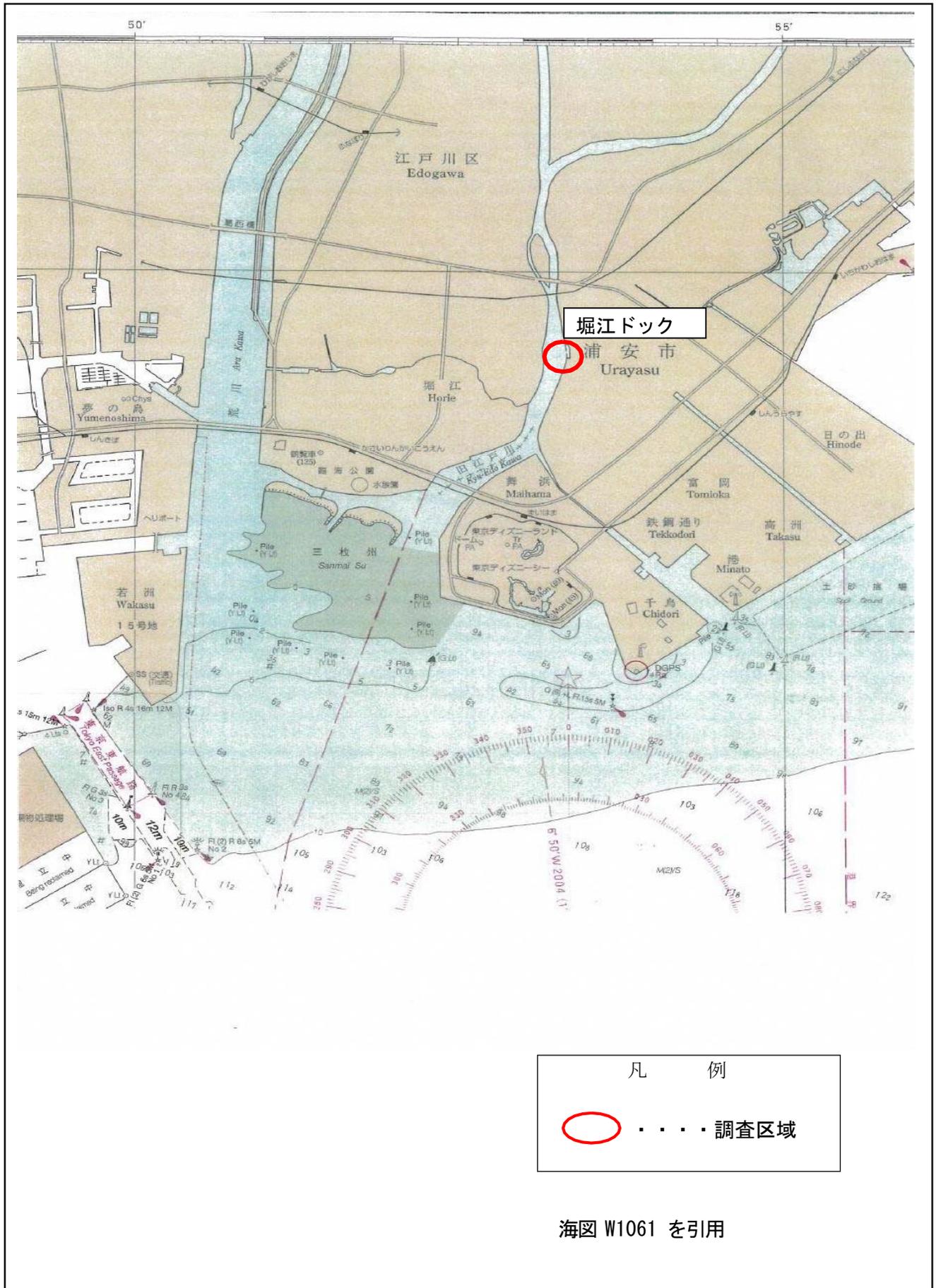
令和 3 年 9 月

千葉県浦安市市民経済部商工観光課

堀江ドック船舶等状況調査委託 報告書

目 次

図 -1 調査区域図	1
1. 業務概要	2~3
1)-1 調査目的	2
1)-2 業務名称	2
1)-3 業務場所	2
1)-4 業務内容	2
表-1 参考数量表	2
1)-5 業務工程	3
表-2 業務工程表	3
1)-6 使用機器	3
表-3 使用機器一覧表	
2. 現地調査概要	4
2)-1 作業計画、現地踏査及び事前協議	4
2)-2 現地調査日と調査回数	4
2)-3 係留船舶状況調査《目視での船舶調査(陸上調査)》	
2)-4 潜水調査	
3. 報告書作成及び調査結果とりまとめ	5~7
3)-1 提出成果資料作成	
4. 調査結果及び考察	8



図一1 調査位置図

1. 業務概要

1)-1 調査目的

本委託業務は、千葉県が実施している低地対策河川事業（旧河川高潮対策、旧都市河川総合整備）について、浦安市富士見工区および市川市島尻工区が令和3年度以降の工事終了を見込んでおり、残された未実施の浦安市堀江ドック区間について、令和5年度以降に工事实施を予定している。

工事实施にあたり、堀江ドック内の沈船を含む船舶について、一時退避及び移動、並びに撤去を行う可能性があることから、堀江ドックの利用状況、係留状況、沈船の状況等の現状把握、さらには、移動先の確保等が必要となる。

本業務委託は、上記についての調査、資料作成、報告を行うものであり、工事の事前に要となる基礎調査を行うことを目的とする。

1)-2 業務名称

堀江ドック船舶等状況調査委託

1)-3 業務場所

（調査履行場所） 浦安市堀江五丁目地先堀江ドック

（成果品納入場所） 浦安市猫実一丁目1番1号浦安市役所3階商工観光課

1)-4 業務内容

本調査の工種別作業数量を下表、表-1に示します。

表-1 参考数量表

項目	工種	参考数量	単位	備考
現地調査				
	作業計画・事前協議	1	業務	
	船舶状況調査	1	業務	
	潜水調査	1	業務	
資料作成		1	式	
	係留船舶台帳作成	1	業務	
	係留船舶状況図	1	業務	
	代替係留地資料作成	1	業務	
打合せ業務		2	回	
成果報告				
	報告書作成	1	部	A4版
	電子媒体(CDR)	2	部	

1)-5 業務工程

履行期間

自：令和 3 年 6 月 3 日 至：令和 3 年 9 月 30 日

業務工程表を表-2に示します。

2021		履行期間：自令和3年6月3日 至令和3年9月30日											
工 種	月 別	6 月		7 月		8 月		9 月		備 考			
		10日	20日	10日	20日	10日	20日	10日	20日				
掘江ドック船舶等状況調査委託													
全体計画													現地踏査・許可申請業務を含む
	計画準備	3	3										
船舶調査													
現地調査	目視調査	16		15	17								船舶等係留状況の確認
	潜水調査			16	18	20							潜水調査(沈船調査他)
資料収集				19		11							船舶番号、廃船等の確認
代替地調査													近隣施設現地踏査
打合せ協議													事前協議を兼ねる
案内資料作成				16				3					代替係留外資料整理まとめ
報告書作成								25					29 印刷・製本
納 品													◆ 納品9/30
記 事		- - - 潜水調査予備日としている											
		— 当初予定計画を示す											
		■ 実施工程を示す											

1)-6 本作業に使用した主な機器を下記、表-3に示す。

表-3 使用機器一覧表

区 分 名 称	機種	精度・性能	製造社	使用区分
GNSS 測位機	R100	±50mm 以内		係船位置測定
潜水具	スキューバ式			沈船・異状物他調査
その他測量具				
警戒船(安全監視船)	5 t 未満・船外機船			潜水調査

2. 現地調査概要

2)-1 作業計画、現地踏査及び事前協議

本調査に先立ち作業計画を立案するために現地踏査を実施し、現地状況の確認を行った。また、堀江ドックに係留している船舶状況について、その個々の諸元について船種、船舶名、船舶番号、及び係留付帯備品等の情報を確認するための調査方法を取りまとめた。

その他、個々の船舶の係留位置の把握、沈船や異常物の有無などの潜水調査方法などを加え、それらについての事前協議を行った。

調査は目視及び潜水調査を併用して実施し、当該船舶には触れず、乗込まず、周辺住民とのトラブルが無いよう十分注意するとともに実施し、実施時期については係留実態を掴み易い、船舶の動きの少ない土曜、休日または海象状況を検討しながら令和3年6月から令和3年8月の期間に2回実施した。

2)-2 現地調査の調査日及び調査回数は以下の通りとした。

- 1) 初回調査 令和3年6月15日(火) 及び令和3年6月16日(水)
- 2) 第2回調査 令和3年7月16日(金) 及び令和3年7月17日(土)

なお、記載はしていないが、これ以外にも詳細確認等を数日実施した。

2)-3 係留船舶状況調査《目視での船舶調査(陸上調査)》

係留船舶調査はその船舶の諸元について調査するため、船舶個々に整理番号を付し船種、船舶名、船舶番号、及び係留付帯備品等の情報を調査した。また、船舶の係留位置を実測するとともに写真撮影を行い、その所在を確定した。

2)-4 潜水調査

堀江ドック内にあるその一部または全部が水没している沈船状況を潜水土により調査した。また、この時沈船以外の大型ごみ、漁具、廃材などの水没している異常物の有無の確認等も併せて実施した。

調査実施日には午前中の低潮位時に潜水土による岸壁近傍付近の歩行調査を実施し、満潮位に向かう午後からは堀江ドック内中央部の船舶航行部から入口部付近までをスキューバ潜水による潜水調査(潜水調査ルート図参照)を実施した。沈船状況については係留船舶調査と同様な船舶諸元を計測、確認した。

潜水調査は係留船舶状況調査2回目と同じ令和3年7月16日(金) 及び令和3年7月17日(土)に実施した。

3. 報告書作成及び調査結果とりまとめ

3-1 提出成果資料作成

1) 係留船舶台帳作成

1隻ごとに係留船舶の諸元、船舶情報及び船舶の写真等を記載した台帳を作成した。
所有者情報等の個人情報資料については別途当該管理者にて記載されることとした。また、所有者情報資料の無いものについては「情報なし」と記載した。

■ 係留船舶の諸元とその記載

1. 堀江ドックでは船舶はほとんどが漁船登録であるため、船種による区分が解りづらいことから、船の長さや幅でその大きさを選び分けることとし、便宜上以下の6種類の船種に分けて整理した。

合計隻数	船舶の状態	船種	隻数	便宜上の規定	備考
62隻	浮いている船 (54隻)	漁船	6	船長 10.0m 以上、船幅 3.0m 以上	P102~104 の記載に準ずる。
		フィッシングボート	31 (プレジャーボート 1、遊漁船 1、屋形船 1 含む)	船長 5.0m 以上 10.0m 未満、船幅 2.5m 以上	〃
		小型ボート	8	船幅 2.0m 以下	〃
		廃船	9 (屋形船 1 含む)	動力が取り外されており、荷物置場等となっているもの。	船長、船幅については P13、P14 に記載。
	沈んでいる船 (8隻)	沈船	8	特になし	〃

2. 船舶名

船舶名の表示がある船舶はそのまま記載し、表示が無い船舶は不明と記載した。

3. 船舶番号及び船舶検査済票

船舶番号表示がある船舶はそのまま記載し、表示が無い船舶は不明と記載した。ただし、日本小型船舶検査機構発行の検査証との現在の関連は不明としている。

4. 船長(船の長さ)と船質

実測による。

5. 係留付帯備品等

係留付帯備品等は、主に以下の備品(現在も使用されていると思われる設備)等について調査した。係留索、舳取パイプ、梯子、棧橋通路、台船、その他

2) 係留船舶状況図の作成

個々の船舶の係留位置を実測し、その資料を基に堀江ドック平面図に座標展開した。この時、船種、船首の向き等の情報を加えて描画することとし、個々の係留船舶の位置を特定可能なものとした。

3) 係留船舶位置座標一覧表の作成

係留船舶状況台帳に記載された船舶諸元と係留船舶状況図に記載された位置情報を併記して、一覧表にとりまとめた。

4) 潜水調査

潜水調査は歩行調査及びスキューバ潜水調査により実施した。実際の調査位置を潜水ルート図に示すとともに、堀江ドック内航行に支障がないことを確認した。以下に異常物の写真を掲載した。

自転車、漁具



生活用品



5) 係留船舶付帯設備のまとめ

堀江ドックに係留している船舶等が使用する付帯設備について資料を取りまとめ、以下に記載した。

支障物状況：

種 類	数 量	材 質	備 考
係船柱	個々の船舶周辺に多数 (2~8 箇所)あり、	丸太・パイプ	舳取り
梯子・タラップ	個々の船舶にほぼ1箇 用意がある	鉄製	
簡易栈橋	個々の船舶に1施設あ り	単管パイプ、足場 板	船舶への乗下船時に使用
ブイ・防舷物	堀江ドック入り口に1 カ所	古タイヤ	
放置自転車・漁 具・生活用品	堀江ドック内に3カ所	残骸、水中に放置	前項写真を参照

4. 調査結果及び考察

堀江ドックは旧江戸川河口部に位置し、近年では水循環性の低い閉鎖的な環境である。水深は 0.5m 2.0m 程度と浅く、干潮位時には奥部で地盤が露出している。底質は大量のヘドロが堆積しており透明度は低い。

設備は全て老朽化しており、乗下船時の安全性は担保されていないが、係留地としては台風などの影響は比較的少なく地政学的にも恵まれた位置にあると考えられる。

第1回、第2回の係留船舶状況調査及び潜水調査の結果によれば、総係留船舶数は 62 隻である。(令和3年7月末現在)

その内訳はフッキングボート(吃水の浅い船外機船) 31 隻、小型ボート(フッキングボートより小さい船外機船)が 8 隻、いわゆる漁船(最も大きく吃水も 1.0m 以上の船内機船)6 隻であった。

次に沈船は 8 隻で上述の 3 船種である。そのうち 5 隻は水面奥部に一時まとめ置かれた形跡があり、残りの 3 隻は点在して放置されている。

廃船は全て漁船で 9 隻あり、破損、荷物置場などとして留め置かれている。船の状態は悪く、動力も取り外されている。

以上、3 回の調査結果を得た。調査期間中、係船状況に変化は少なかった。